

保護者のことば

伊那西高等学校

令和3年度卒業生の保護者の方々から寄せていただきました。(原文のまま)

Y様 (M・Yさんの母)

今も思い出すのは、入学式前のオリエンテーションで校長先生が「必ず3年後にはお子さんが『伊那西高校に入って良かった』と言うということをお約束します」と話され、3年後、本当にその言葉通り、娘は夢の一つを叶えることが出来ました。

知り合いの保護者の方から「伊那西高校は良いよ」と聞いてはいましたが、正直、私は娘には公立高校に行きたくかったため、なかなかその言葉を受け入れられずにいました。

入学式が終わって、担任の先生の紹介などがあり、そのあとは保護者の皆さんともかかわることが出来ました。その場で感じたのは、伊那西高校は生徒だけでなく保護者と先生との関係も近いのだなという思いでした。

1年の時から、娘は毎日のように学校であったことをとても嬉しそうに話してくれました。クラブ活動のことも学校での行事のことも話してくれ、その娘の言葉から毎日の楽しい生活が伝わり安心しました。娘が成長したのは、担任の先生からの勧めもあり、生徒会役員に挑戦したことからです。同じクラスの友達も親子で立会演説会の内容を考えさせてくださり、娘の推薦人として力を貸してくださいました。惜しくも娘は落選しましたが、担任の先生や同じクラスの友達がとても応援してくれたことをうれしく思いました。また、その娘の頑張りや晴れ晴れとした姿が印象に残っています。

進路では、学校内のいろんな先生からの助けや協力のおかげで、ずっと夢だった大学へと入学することが出来ました。

私は、娘から、そして伊那西高校から、夢はあきらめずに掴もうと願って努力すれば、まわりからも自然と協力が得られ、やがて叶うのだと教えてもらいました。泣き虫だった娘が今後どのように大人へと成長していくのかがとても楽しみです。

娘の高校生活3年間のうち、2年間はコロナ渦で思うように学校生活ができなかったのは残念ですが、今後も伊那西高校の生徒さんの活躍を楽しみにしております。

(長野県立大学健康発達学部こども学科へ進学)

K 様 (R・K さんの母)

伊那西高校に入学して、あっという間に1年が過ぎ、2学年になると進路に向けて取り組みが始まりましたが、後半は新型コロナの影響により自宅での学習が多くなりました。

そのまま3学年がスタートしたのですが、暫く学校で授業を受けていなかった事もあった為か精神的に不安定になり、笑顔が見られなくなりました。とても心配でしたが、娘が立ち直るきっかけとなったのは担任の先生との三者懇談でした。

自分自身を否定する娘に先生は少し間を置き、温かい言葉をかけてくださいました。そして、日々の姿をちゃんと見ていてくださっていることを知ることができました。その時から、もう一度自分の進む道を考え、受験に向かうことができたのです。伊那西高校の「魅力」は本当にたくさんありますが、やはり先生方の丁寧な対応、手厚いサポートだと感じます。子どもたちのことを「ひとりの人間」として真剣に向き合い、尊重し、認める、そんな先生方の姿は子どもたちに伝わり、自らを高め、他人を思いやる気持ちを持てる人に成長させてくれたのではないのでしょうか。

娘自身、辛くて悲しい時が何度かありましたが、その度に先生方や友達に支えていただきました。そして、その支えを「力」にして自分自身で乗り越えようとすることを学んだように思えます。勉強はもちろん、他人を意識する事、当たり前の日常に感謝する気持ちを学ぶことができた3年間でした。

「伊那西高校で良かった!」「このクラスで良かった!」と言った娘の言葉が、伊那西高校で過ごしたすべてだと思います。

(信州大学繊維学部応用生物化学科へ進学)

K 様 (M・K さんの母)

両親ともにサービス業で、通学の交通事情もあり、

「伊那西は送迎バスが出ているからお姉ちゃんと同じ高校でお願いして良い?」と聞くと「他校行ったけど伊那西のトイレが一番きれいだから良いよ。」と受け入れてくれました。

入学式当日、担任の先生が初ホームルームで、「皆さんは勉強をするためにこの学校に来たんですね。」と話された時、姉は普通コースだったので、進学コースの心構えに身の引き締まる思いでした。クラブは中学時代からやっていた、姉も一緒に吹奏楽クラブに決め、楽器もホルンと決まり活動が始まりました。慣れない楽器でしたが、先輩がやさしく指導してくださいました。

こうして勉学にもクラブにも励んでいましたが、2年生からは新型コロナの影響で、4月から5月中旬まではZoomでのホームルームと自宅学習でした。授業が始まったのは5月下旬からで、勉強の遅れが心配でした。2年生からは7限授業も増えたため、クラブ活動休止という選択を取り、勉学に励む事にしました。

3年生になっても新型コロナウィルスが終息せず、短縮授業が多くなる中、夏休みも午前中は学校で勉強、土曜日でも午前中は学校で勉強、平日は週4日の7限授業と勉強中心に

励んで、大学入学共通テストに臨みました。問題はとても難しく、第1志望の大学ではありませんでしたが、県外の大学に進学が決まりました。余談ですが、父親は県内の大学が希望だったので、寮にいくまで反対しておりました。

心配していた修学旅行は、県内でしたが行くことができました。卒業式は姉の時と同様、保護者1名の制限はありましたが、実施していただきました。この3年間、先生方には熱心にご指導いただき感謝しております。

(日本大学生産工学部応用分子化学科へ進学)

B様 (M・Bさんの母)

伊那西高校で過ごした3年間は娘にとっても、親にとっても充実した楽しい時間でした。

入学当初、親の願いは高校3年間で何かひとつでも自分に自信が持てるものを見つけて欲しいということでした。入学式後の最初のホームルームで、担任の先生から大学受験についての話があり、1年生からの勉強がとても重要だと聞いて正直びっくりしましたが、今思うと大事なスタートを教えていただけたと思っています。

クラブ活動は運動系か英語研究クラブか迷っていたとき、担任の先生には親身に相談にのっていただきました。今までは授業参観でも自主的に手をあげることがない娘が、英語研究クラブに入りスピーチコンテストに挑戦することを聞いたときは、家族全員びっくりしました。クラブ顧問の先生も熱心にご指導していただき、土日も英語漬けの毎日。英語の発音や意味ももちろんですが、どう表現すれば伝わるか自分なりに動画をみて研究していました。貴重な経験を積んだことで、より深く英語を学びたいと思うきっかけになったようです。また1年生の時から英語検定にもチャレンジし、クラブ活動を通して今までの勉強法を改善し、結果的に2年時に合格できたことで大きな自信に繋がりました。

大学受験では総合型選抜を希望していたため、担任の先生から併願校のアドバイスとして、沢山の受験方法の中から娘に合ったものを教えていただくなど、手厚くご指導いただきました。コロナ禍でオープンキャンパスは志望校をかなり絞って参加したのですが、実際に見ることで、絶対に入学したいと気持ちを奮い立たせる良い機会となりました。志望校が決まってからは試験に向けて志望動機や面接練習など多くの先生方にサポートしていただきました。同時にクラブ顧問の先生には英語の試験対策も熱心にご指導いただきました。リスニングを苦手としていた娘に毎日アドバイスしてくださり、試験当日は自信をもって挑めたそうです。合格の際には先生方も一緒に喜んでくださり、すごく嬉しかったと言っていました。先生方は娘の長所を最大限に伸ばしてくれました。

結果的に、娘は高校3年間で沢山の自信が持てるものを見つけたようです。相談でき、信頼できる沢山の友達、自ら学ぶ自立学習、将来の夢を現実に近づける力、努力で勝ち取った大学合格など、沢山の学び自信に繋げることができました。伊那西での3年間は、親の想像以上に娘を大きく成長してくれました。高校時代は将来を決める上でも重要な時期を伊那西高校で過ごせて本当に良かったと思います。

(神田外語大学外国語学部英米語学科へ進学)

S 様 (H・S さんの母)

伊那西高校で過ごした3年間の日々は、揺れ動いていた娘の心を支え、確実に成長させてくれました。

多感な思春期、もちろん楽しい事ばかりではなく、入学当初は心労や身体の故障やらで、苦しみながらの登校が続きました。先生方は娘の些細な言動も気にかけてくれ、声をかけ励ましてくれたそうです。そのおかげで何とか前向きな気持ちを持ち続けられました。

親としては娘の力を信じて見守るだけでしたが、2年生になる頃、娘の様子が変わってきました。故障で転部を余儀なくされ、『今の自分にできるクラブ』と選んだクラブの転部先がぴったりハマったのです。英語研究クラブでコンテストや検定など目標ができ、やるべきことが明確になったことで、「大変だけど楽しい!」と毎日張り切って登校するようになりました。家でも夜遅くまで勉強に励み、学校でのこともよく笑って話してくれました。今思うと、あの時が娘の進学へのスタートラインだったようです。

いよいよ最終学年。気付けば娘はすっかり以前の元気を取り戻し、生徒会役員となって忙しい毎日を送りました。進学を希望した娘のために丁寧な進路指導をしてくださり、本番さながらの面接練習も幾度となくやっていただきました。おかげで不安なく受験に臨め、目指す大学・学部合格し、晴れ晴れとした気持ちで卒業を迎えることができました。

悩んだ時、本気で相談に乗り、応援してくれる先生方に出会えたことで娘の心は強くなれたと確信しています。子どもの成長を感じられ、親としてこんなにうれしい事はありません。チャンスを与えていただき、頑張る気持ちを起こさせてくれた伊那西高校の環境と先生方に心から感謝しています。

(名古屋学院大学外国語学部英米語学科へ進学)

K 様 (O・K さんの母)

3年前の入学式の写真を見ると、緊張で肩が上がり、不安そうな顔でピースサイン。そして、卒業式の日撮った写真は、どれも満面の笑みでピースサイン。晴れ晴れした表情から、3年間の高校生活をやりきった達成感が伝わってきます。

我が家では、上の娘も7年前に伊那西高校を卒業しています。縁あって、下の娘も伊那西に通うことになった時、「伊那西なら安心して通わせることができる」と、親としての不安は全くありませんでした。

さて、3年間の高校生活を振り返ってみると、娘は人見知りのところがあるので、友達ができるか、クラスに馴染めるか不安があったと思います。しかし、日々通う中で、クラスでもクラブでも友達ができ、3年生の時はホームルーム長やクラブ長を任せられ、多忙な中でも充実した3年間でした。立場上、常に周りの友達や後輩の事を考え、まとめていくのは毎日本当に大変そうでした。さまざまな壁にぶつかり、悩み苦しんだ時期もありました。しかし、その時々で、友達や先生方から沢山励ましや、ご指導を頂きました。そんな日々を積み重ねる中で、自ら考え行動出来る様になり、娘の成長を実感しています。

進学して、1ヶ月余り経ちますが、伊那西での経験が活かされていると感じています。娘にとって伊那西での高校生活は、人として大きく成長する大切な時間でした。ここで得た全ての経験は、これから生きていくうえで、心の拠り所となることでしょう。

(松本大学松商短期大学部商学科へ進学)

Y 様 (H・Y さんの母)

中学卒業後の高校選択はとても大切だと伊那西高校に通って改めて感じました。思春期で様々な影響を受けやすい時期であり、心も体も大きく成長するときに伊那西高校で学べたことは、今の娘の成長した姿をみると、間違いではなかったと実感できます。

中学では様々な勉強方法を取り入れるも成績が伸びず、部活も行いながら毎日に必死に過ごしていました。自分の進路に悩みながらも自分の夢である助産師になるためにはどの学校を選択していくべきか考えていました。中学でも様々な職業体験を行い、自分の夢を語る姿をみて、娘の夢を叶えるための学校選びを一緒に考えました。高校体験も沢山参加しました。その中で娘とともに伊那西高校の体験に参加し、高校の雰囲気の良いさと、校長先生の生徒一人ひとりを大切に思い、向き合ってくださいの様子が変わり、個性を大切にされた寄り添った教育にとっても魅力を感じました。また、体験時に進路相談をさせていただきましたが、まだ入学もしていない娘に対し真剣に話をきいてくださいました。そして、「任せてください。大丈夫です。」と声をかけていただき、伊那西高校なら安心して娘を通わせることができる、そして伸び伸び学べるのではないかと思います入学させることにしました。

娘に伊那西高校の事を聞くと、「女子校サイコー」といいます。自分を飾ることがなく、自分のままで自分の可能性を最大限に発揮できる場所だと思います。先生一人ひとりが親身になり、個性を大切にしてくれる、私も近くで娘の姿を見ていてそう思います。また、仏教を通して感謝する心が自然と身についたと感じます。クラブ活動においては部長という立場で、相手の事を考えて行動し、周囲にも感謝することができるようになり、先生方のサポートで大きく成長できたとともに、有意義なクラブで活動ができました。

進路においても、多くの先生方がサポートして下さり本当に感謝しかありません。高校は通過点にすぎませんが、子どもたちには大人になるための大切な進路選択となります。これから入学していく皆様にはぜひ入学してから伊那西高校を知るのではなく、もっと前段階の学校見学や進路相談から参加し、伊那西高校を知っていただきたいと思います。娘に聞くと、進路については推薦枠も多く、また、自分の目指す方向をよく聞いてくれて、その夢を実現するための次のステップを先生方と一緒に考え選択できる本当によい高校だと言っていました。姉が生き生きと学校生活を送っている様子を間近で見ていた妹は、何の迷いもなく伊那西高校を選択し、今通っています。

卒業式では先生方から子ども達に感謝の言葉を伝えている場面を何度もみて、本当に大切にされていたのだと実感できました。娘にとって伊那西高校での3年間はかけがえのないものであり、次へ進むための大切な3年間となりました。

そんな娘も今は看護師と助産師になるために奮闘しています。

(飯田女子短期大学看護学科専攻科特別進学枠へ進学)

K 様 (N・K さんの母)

3年前、伊那西高校へ入学した時、校舎がとても綺麗で、掃除がきちんとしていて驚いた記憶があります。生徒のみなさんもきちんと挨拶ができていて、とても気持ちのいい印象でした。

入学して、娘が初めに悩んだのがクラブを決める時でした。小学校から約7年間テニスをしてきた娘は、夜遅くまでどのクラブに入るか悩み、担任の先生からの一言で今までとは違うソフトボールクラブに入部しました。クラブ活動が始まると、雰囲気良く、先輩たちとも仲良くさせていただき、何度も優勝を経験させていただきました。その分、練習も大変でした。持病を持っている娘はクラブを休むことも多く、本人はとても辛かったと思います。それでも頑張っていて3年間やってこられたのは、顧問の先生が部員の皆に休む理由を話して理解を得てくださり、娘を支えてくれたチームの仲間のおかげでした。

クラスでも持病で保健室に行くことが多く、クラスの仲間のお世話になることも多かった娘ですが、助けてくれたクラスメイトの優しさに感謝しかありません。3年間トラブルもなく、楽しい担任とクラスのみなさんと過ごせて良かったと思います。

また、先生方と気軽にお話ができることも伊那西高校の良さだと思いました。私たち保護者も先生方といろいろお話をさせていただき親子ともども楽しい3年間でした。先生方がいつも見守ってくださり、熱心にご指導くださいましたことに感謝いたします。

(松本理容美容専門学校へ進学)

M 様 (C・M さんの母)

生徒一人ひとりに手厚いと聞いていた伊那西高校に伺ったのは進学相談説明会の日でした。綺麗に清掃された校舎、身だしなみと笑顔が素敵な生徒さんの気持ちの良い挨拶、学校の教育方針と先生方の丁寧な対応と説明、娘にこの学校で学んでほしいと思いました。通学するとなると距離も時間もかかるのですが、翌日、登校時間に合わせて電車に乗り、学校までの通学路を確認して帰ってきた娘の一言は「伊那西高校に行きたい。」でした。昨日の事のように憶えています。

娘のクラスは担任の先生のお人柄のような和やかなクラスで、友人もすぐにできました。通学に慣れるまでは、と迷っていたクラブ活動は、途中からの入部にもかかわらず歓迎していただきました。書道クラブは、ひとつひとつの作品に集中し、創り上げる楽しみがあったようです。顧問の先生にはクラブ以外でも、勉強での努力などに嬉しい声をかけていただき、自信とモチベーションになっていきました。

3年間で身につけた仏教の教えと学校での教えは娘の心を大きく成長させてくれました。「人の価値観のモノサシで物事を測らなくてもいい」、「特別な何かにならなくても本当の自分になればいい」という言葉は私も忘れないようにしたいと思います。

将来に向け頑張っている娘を見て、あなたなら大丈夫と送り出してくださった伊那西高校に感謝しています。これからも心の豊かな生徒を育む伊那西高校のご発展をお祈りしています。一期一会に感謝。

(エプソン情報科学専門学校情報ビジネス科へ進学)

K様 (B・Kさんの母)

3年間楽しく学校に通えたのは、担任やクラブ顧問の先生をはじめ多くの先生方、そして、友人達の存在がどれだけ大きかったかということに改めて感じております。

特にクラブ活動の存在は、一番大きかったのではないのでしょうか。入学して間もなく、まさかの運動部に入部すると言われた時は、本当にびっくりしました。中学までは、体育の授業でしか運動はしたことがないという程でしたから、入部するのはいいが、継続できるのか本当に心配でした。しかし、私の心配をよそに、いつの日からか見るからに運動部という体格になり、思っていた以上の厳しいトレーニングにもかかわらず、先生、チームメイトの励ましにより、3年間やり抜くことが出来ました。親としては、励ましの声をかけるのが普通かと思いましたが、「いつ辞めてもいいんだよ」「無理しなくていいんだよ」と抜け道ばかりを言っていたと思います。それが良かったのか悪かったのかわかりませんが、特に体調を崩すこともなく、「絶対に休まないから」と学校はもちろん、クラブ活動も初心者でありながら本当によくやり抜いたと感心しております。

卒業式の日、顧問の先生から「3年間本当に厳しかったと思います。これからもっともっと厳しい社会に出ていく君達が困らないように指導してきました」というお言葉をいただいた時には、涙と感謝の気持ちでいっぱいでした。厳しくご指導いただいたおかげで、どんな壁にも立ち向かう生きる力を養うことができました。やはり、伊那西高校を選び、運動部でやる！と決心し、先生やチームメイトに出会うことができた娘は、本当に幸運でした。進路を決める際も、最後まで寄り添いご指導いただいた結果、就職先も困ることなく決まりました。親子ともども、本当に感謝しております。

(株式会社ユーエスアイへ就職)

M様 (N・Mさんの父)

高校選択の初期では、男女共学校でという考えの娘でしたが、学校見学で伊那西高校を志望することが固まり、先輩の保護者さんからのアドバイスもあって、私の考えも伊那西高校に固まりました。

入学するにあたり保護者としてもいろいろと心配はありましたが、校長先生をはじめ、関わる先生方が常に寄り添ってくださったことで、娘が日々成長していく様子を実感することができました。

進路を考えなくてはいけない時期に入り、娘は漠然と進学も考えに思ったと思いますが、専門職を目指す目的もなかったことから、細やかにサポートいただける伊那西高校では就職を目指すことが娘にとっても有利と考えて就職の道を勧めました。その後は就職先に目標を持たせることで、勉強、クラブ活動にと力を注ぐことができたのではないかと思います。結果、目標としていた企業に就職することができ、様々な局面で関わっていただいた先生方には感謝しかありません。

また、コロナ禍で、文化祭を含め各行事の縮小が避けられなかった中、何とか思い出作りができるようにと、行先を何度も模索しながら修学旅行を実施していただいたこと、保護者としてもとても嬉しく思いました。こういった面も子どもたちに寄り添うという姿勢の表れだと感じています。

娘は、学習環境、そして先生方、お友達に恵まれ、充実した高校生活を過ごすことができました。これも、ひとえに伊那西高校を選択した結果であると確信しております。

(伊那食品工業株式会社へ就職)